

○アメリカの心理学者マズローの欲求段階説という理論があります。保健で学習したかもしれません。人間の欲求はピラミッドのように5階層からなっているというものです。低階層＝原始的な欲求から、

・生理的欲求 ・安全の欲求 ・所属と愛の欲求 ・承認（尊重）の欲求 ・自己実現の欲求 としており、低階層の欲求が満たされると、次の欲求を求めるといいます。

これまでの始業式等では、ピラミッドの頂上にある自己実現に向けての話が多かったので、今回は、下の方に目を向けてみます。

○一番下の生理的な欲求というのは、食べる、眠るなど動物にも共通する基本的な欲求です。これは、皆さん自身が保護者の協力の下に家庭でしっかりやっていくべきところです。次の安全の欲求というのは、危機を回避したい、生きていることを脅かされなくて、安全・安心な暮らしがしたい、というものです。安心して生活できなかつたら勉強どころではありませんから、学校が安心できる環境であるということはとても重要なことで、しかも、これは、生徒の皆さんと私たち教職員とでつくりあげていく環境です。そこで今回は、いじめ等のない安心できる学校というテーマで話をしたいと思います。

○11月の半ば頃、学校に一通の手紙が届きました。差出人は、分かりません。

封筒の中には、芸能人のいじめに関するメッセージからの引用と思われる内容が書かれており、そして、コミックのコピーが1枚添えられていました。先生方に聞くと、「ワンピース」という漫画の1ページらしい。「ワンピース」という作品自体も知らなかったのですが、差出人の意図を知りたいと思い、とりあえず読んでみました。そして、9巻の「ナミという仲間の子が、主人公のルフィーに助けてという」という場面だと分かりました。

○内容その他の状況から判断して、本校の生徒ではない、少なくとも本校でいじ

められている生徒が出してきたものでないように思われました。しかし念のために、各クラスで何か思い当たることや、困っていることがあれば相談してくださいと声をかけてもらいましたので、「ああ、あの時のことか」と思い出してもらえるのではないかと思います。

○いじめ問題については、3年前の天津市の事件等を契機に、昨年「いじめ防止対策推進法」が制定されました。本校でも、これを受けて、「鹿沼東高いじめ防止基本方針」を策定するなど、今までの対応方法の再確認をしました。このような決まりがなくとも、本校ではこれまでも「アンケート調査」を行うなど、いじめのない学校づくりに真摯に取り組んできましたので、何かあっても大事に至らないうちに対応ができている状況にあると思っています。

○そして、それと同時に「いじめは、どの生徒にでも、どの学校でも、いつでも起こりうるもの」という認識も持っています。最近、スマホなどネットを介在したいじめも見られるようになり、「いじめ」は益々見えにくくなっています。もし、困っている状況にある人がいれば、ためらわずに相談しやすい先生や、保護者など大人に相談してください。また、周りで「いじめではないか」と思うようなことがあったら、ためらわずに声をかけてあげてください。できなければ、先生に知らせてください。今は、教員が目を光らせてさえいれば、いじめは防げるという時代ではなくなってきました。いじめはどんな理由があろうとも許されるものではありません。ぜひ、いじめのない学校づくりに、皆さんも協力してほしいと思います。

○天津市のいじめ事件の後（2012）、朝日新聞が、いじめの特集を組みました。「いじめられている君へ」、「いじめている君へ」、「いじめを見ている君へ」というテーマで、各界の著名人がメッセージを寄せたものです。その特集の中で私の心に一番響いたのは、春名風花（はるな・ふうか）さんという元子役の女優さんのメッセージ「いじめている君へ」です。少し、長いのですがご紹介します。

『ぼくは小学6年生です。タレントだけど、ふつうの女の子です。(※当時、彼女は自分のことをボクと呼んでいた)

今から書く言葉は君には届かないかもしれない。だって、いじめてる子は、自分がいじめっ子だなんて思っていないから。

いじめがばれた時、いじめっ子が口をそろえて「じぶんはいじめてない」って言うのは、大人が言う保身(ほしん)のためだけじゃなく、その子の正直な気持ちじゃないかなと思います。

ただ遊んでいるだけなんだよね。自分より弱いおもちゃで。相手を人間だと思ってたら、いじめなんてできないよね。感情のおもむくままに、醜悪(しゅうあく)なゲームで遊んでいるんだもんね。

ぼくもツイッターでよく死ねとか消えろとかブスとかウザいとか言われます。顔が見えないから体は傷つかないけど、匿名(とくめい)なぶん、言葉のナイフは鋭(すど)いです。

ぼくだけでなく、時には家族を傷つけられることもある。涙が出ないくらい苦しくて、死にたくなる日もあります。

けれどぼくは、ぼくがいくら泣こうが、本当に自殺しようが、その人たちが何も感じないことを知っている。いじめられた子が苦しんで、泣いて、死んでも、いじめた子は変わらず明日も笑ってご飯を食べる。いじめは、いじめた人には「どうでもいいこと」なんです。

いじめを止めるのは、残念ながらいじめられた子の死ではありません。その子が死んでも、また他の子でいじめは続く。いじめは、いじめる子に想像力(そうぞうりょく)を持ってもらうことでしか止まらない。

いじめゲームをしている君へ。

あのね。キモい死ねと連日ネットで言われるぼくが生まれた日、パパとママはうれしくて、命にかえても守りたいと思って、ぼくがかわいくて、すごく泣いたらしいですよ。この子に出会うために生きてきたんだって思えるくらい幸せだったんだって。それは、ぼくが生意気(なまいき)になった今でも変わらないですよ。

想像してください。君があざ笑った子がはじめて立った日、はじめて歩いた

日、はじめて笑った日、うれしくて泣いたり笑ったりした人たちの姿を。君がキモいウザいと思った人を、世界中の誰（だれ）よりも、じぶんの命にかえても、愛している人たちのことを。

そして、その人たちと同じように笑ったり泣いたりして君を育ててきた、君のお父さんやお母さんが、今の君を見てどう思うのか。

それは、君のちっぽけな優越感（ゆうえつかん）と引き換（か）えに失ってもいいものなのか。いま一度、考えてみてください。』・・・こういう内容でした。いじめを自分の視点でしっかり捉えて、主張しています。

○いじめは、人権問題です。様々な人権問題がありますが、人権問題の構造は、立場の強い者から弱い者に対して為される偏見や差別であることが多いと思っています。ほとんどが強い者から弱い者に、多数の者から少数の者に、慣れ親しんだ者たちから異質の者に対してなされるものと、私は捉えています。

（※いじめの定義では、2007年から、弱い者に対してという力関係が削除され、一定の人間関係がある者からという表現に改められましたが、これは、昔は体力の強い弱いなどで分かりやすいいじめが多かったのに対して、今は、いじめる、いじめられるの関係が突然逆転したり、見かけだけでは、強い弱い関係が見えにくくなってきたためではないかと思います）

○強い者から弱い者に対する人権問題という、例をあげます。

まず、学校においては、教師が生徒に対してという体罰の問題があります。

体罰は、学校の安全安心を脅かすものです。一昨年（2011年）の正に今日（2012. 12. 22）、大阪で運動部の顧問がキャプテンに体罰を与え、翌日生徒が自殺するという事件がありました。昨年は本校も含めて全県的に、アンケート調査を実施しました。県内の全校長を急ぎよ集めて、研修会も実施しました。私たち教職員は、このようなことのないように細心の注意を払っていますが、これも何かあれば我慢せずに、すぐに相談してほしいと思います。

他の例としては、

大人が子どもに対して、

男性が女性に対して、
健常者が障がい者に対して、
邦人が外国人に対して、など色々な関係が挙げられます。

○そして、強者は、弱者の痛みを、弱者ほど深刻に捉えられないという共通性があると、私は感じています。先ほどの春名風花さんも、その視点をコメントしています。

つまり、弱い立場になって、初めて、侵害されている状況に気づく、敏感になるということがあります。いじめられた経験のある人は、周りのいじめをよく見えています。

病気になって、はじめて、普段の健康のありがたみを感じる、健康を生かせなかったことを後悔する、というのも弱くなって見えるようになるという点で似ています。

○では、弱くないと分からないかという、そうではなく、それはアンテナの問題です。弱者が踏みにじられていないかどうか、そのような問題に感受性の高い人になってほしいと思います。

世間では、詐欺、偽装問題、無差別の暴力とか、警戒しないと暮らせない状況が次々に報道されていますが、学校だけはそうありたくないものです。皆さん、東高を、益々安全安心な学校にしていきましょう。

○最後になりますが、二学期も今日で終わりとなります。今学期、色々な場面で皆さんの活躍が見られました。今年を振り返り新年に向けての決意も新たにするところかと思えます。有意義な冬休みを過ごして、始業式に再会できることを期待して、式辞といたします。